マサカリ投法の原点

村田兆治氏
（昭和43年3月卒）

福山電波工業高校時代の野球部の思い出と言われても、三十年も前のことでもあり記憶が疎くなっております。三原から通学して、入学した当時は体格も際立って大きいとは思っていませんでしたが、投手としてスピードをつけるため、できる限りを尽くして体力作りに取り組みました。

監督は国語を担当しておられた近藤道稔先生でした。一年先輩にはヤクルト（当時サンケイ）に入団した浅野啓司さんがエースでおられた。

確かではないが二年の春季総体で「初日に呉工業で完投。引き続き、二日目も右背中の筋肉を痛め、腕もあがらぬ重体で一カ月余りも休んでいたエース浅野投手に代わり先発した小川投手の二番手としてリリーフして九回まで投げ、九回にエース浅野で呉商業に勝ち、決勝は一年生投手の村上投手の好投で崇徳高校を破り優勝した」と、当時の学校新聞に掲載されているそうです。

残念ながら三年間、春夏を通じて甲子園出場の夢は果たせなかった。

卒業の寄せ書きに「栄冠使命に誓う。誠根」と記したようですが、今も考え方は変わっておりません。

どんな状況でもベストを尽くし、何度でも限界に挑戦し、あきらめず自分を信じることが基本です。努力は当たり前で、自分で目標を決め、最後までやり抜くように心掛けて下さい。

【プロフィル】昭和四十三年年ドラフト一位で東京オリオンズ（現千葉ロッテマリーンズ）入団。〝マサカリ投法〟で活躍。最多勝一回、防御率一位三回、MVP（後期）一回。平成元年に二〇〇勝達成。二年若

89年11月、全校生徒対象の講演会に講師として来校、講演会終了後、上茂雄・野球部主将（現ＮＫＫ硬式野球部）と応接室で

林（阪神）以来、四十歳代二ケタ勝利（十勝）、通算二一五勝一八四敗。ダイエーコーチなどを歴任。著書に「右腕の傷あと」「剛腕直言」「先発完投わが人生」など。

（ＮＨＫプロ野球解説者）